

平成 26 年度海外短期研修報告書

オーストラリア春期英語研修（平成 27 年 2 月 23 日～3 月 20 日）

都市教養学部経営学系 2 年 守安 惇

大学入学以前から海外や留学に興味があり、コストや期間を考慮すると 4 週間の英語研修が自分にあっていると考えたため、春期英語研修に申し込んだ。

現地でのクラスは、基本的に日本人が多く、自分のクラスは日本人、中国人、ブラジル人で構成されていた。授業内容はテキストに沿った文法中心であり、難易度はそこまで高くはなかったため苦労はしなかったが、語彙レベルはかなり高く多くの言葉や言い回しを学んだ。また、中国人とブラジル人生徒の授業参加への積極性に驚かされる



る毎日で、日本人の何倍も発言している姿が印象的で、自分も触発され質問や発言をするよう心がけた。文法以外にもスピーキング、リスニング、ライティングの練習があり、リスニングは非常にハイレベルでとても苦労した。スピーキングは 4 週間の終わりの試験に向けた 2 分間のスピーチが主な内容であった。突然指名されクラスの前でスピーチをすることもあったが、言いよどむことなく 2 分間英語を話し続けることができ、授業を通じて至る所で自分の英語力の進歩を実感することができた。また、クラスの友達とは授業後にサッカーやバスケットをするなど、授業以外でも関わりを持つほど仲良くなれた。

現地の授業を実際に聞く機会もあったが、まず驚いたのは現地の学生の熱心さである。日本より短い 60 分の授業中はひたすらパソコンでノートを取り、大教室でも発言することをためらわない姿がとても印象的だった。授業自体は先生の言葉を聞き取るのは非常に困難で、3 割程度しか理解できなかった。

バディプログラムではマッコーリー大学の生徒と仲良くなることができ、多くのつながりを作ることができた。特に自分の場合はトンガ出身のバディと仲良くなり、ビーチや動物園、ブルーマウンテンなどいろいろなところに連れて行ってもらい、さらに彼の家でバーベキューをするなどかなりお世話になった。来年日本に留学を考えている人、日本で働くことを目指す人もいて、次は日本で会う約束をするなど、帰国後も多くの友達と SNS を通じて連絡を取り合っている。

現地での生活はホームステイであった。ホストファミリーのルーツはイギリスであったため、両親はイギリス英語を話し、2 人の兄弟はオーストラリア英語を話していたので、2

種類の英語を身近に感じながら生活した。最初は何を言っているのか理解できないことが多くあり、何度も何度も聞き返してしまった。特にホストブラザーは多くのスラングを使っていたので理解できるようになるまでかなり時間がかかったが、聞き返すたびに辞書を使って説明してくれたり、わかりやすく言い直してくれるなど、英語の勉強に常に協力してくれた。ホストファミリーは皆とてもおおらかで優しく、休日にはいろいろなところに連れて行って頂いた。平日も1歳下と4歳上のホストブラザーとはゲームをしたり、映画を見たり、サッカーをするなど、多く遊んでもらった。両親とは食事を一緒に作る事が多く、多くのレシピを教えていただいた。更に日本では体験できないようなホームパーティーにも参加させていただき、オーストラリアの家庭の文化を体感できて非常に有意義であった。



現地では月曜から金曜に授業があったため、完全な休みは土日だけであったが、授業は毎日13時前には終了したので平日の授業後はシティに行って観光をしたり、大学やその周辺で友達と遊ぶなど比較的自由な時間が多かった。

大学のプログラムであるサマーキャンプやクルーズにも参加した。キャンプは首都大から参加したのは3人だけだったが、多くのマッコーリ

一大学生と仲良くなることができ、他の留学生とも仲良くなった。キャンプでは海で遊んだり茂みの中を歩いたり、オーストラリア特有のダンスやスポーツを体験することもできた。そこで仲良くなった人たちとその後遊ぶこともあったので、留学中は自分から積極的にいろいろなことに挑戦して正解だったと思う。

出国前は英語力に自信がなく、ホストファミリーと会う前はかなり緊張したが、留学を通じて自分の英語力に少し自信が持てる程度には向上した。1ヶ月のオーストラリアでの生活とそこでの多くの人との交流を通じて文化や日本人とは異なる価値観を体験することができたので、非常に有意義な留学になった。